

近世人物誌

やまご新聞附録第七

力士梅ヶ谷藤三郎  
梅ヶ谷藤三郎福間在の出生あり幼少  
父を以て家負ひ白き新米賣  
て市出幸し母を養ひ居たりが人の  
進み小由り大阪に出て角勝をありふ  
幾程もかく大関あり梅ヶ谷の名聞  
の東西聞て器たり或時古郷の  
母を大阪へ迎へんとせぬ母の住  
馴れ地を離るるを好まぬ田畑敷  
丁を以て母を隠居の料なり其  
後深く前途を慮り所ありて江戸へ出  
當時相撲道を行へり抄子定規の風  
制を以て固守昨日難波の大関と  
称せられ身も今日江都の幕下と  
いふ尚徳色もか勉勵勿く大関要  
地を争ひ向ふ敵か古の谷風中古の陳  
幕と仲沖の間ありとの評の遂ゆさ  
十七年の春横綱免許の榮を得たり  
合好其年賢き邊りの御覽と奉り  
御前於て言入り衣入を以て開股と奉り持  
結と路拂ひを以て遠く往くを以て  
此の光相撲勝を得て十日の大関協  
合を賜り程か辞し年寄と  
なり同社会その殊重んじべき雷  
権大夫の名を相続東の幕の内過半  
氏内人を凡そ道開けて以來の如き  
始終芳出度人を見せりさ

芳年



發行所 東京 京橋區 心也新聞社 時主 奥隅 欣二

彫工 圓活

力士梅ヶ谷藤三郎7号 文庫10-8617-7

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

